University of California, Irvine (UCI) 交換留学への道

海外交流

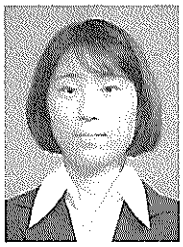
北 原 教 子*

The Process to Get an Admission to University of California, Irvine (UCI), as an Education Abroad Program (EAP) Reciprocity Student

Key Words: Universty of California, Irvine, Education Abroad Program, Exchange Student, Graduate Student, English as a Second Language

1. はじめに

University of California (UC)のEAP (Education Abroad Program)とは，UC Berkeley, Davis, Irvine, Los Angeles, Riverside, San Diego, San Francisco, Santa Barbara, Santa Cruzの9校と世界中の提携大学間の交換留学制度です．1 quarterのものから，3 quarters (1年間)のものがあり，私は，University of California, Irvineの大学院で1年間(1999年9月-2000年7月：大阪大学大学院工学研究科分子化学専攻博士後期課程1年次-2年次)，3rd year graduate studentとして有機合成化学分野のKeith A. Woerpel Groupに属し，実験中心の研究活動をしてきました．大阪大学では海外からの交換留学生を多く受け入れていますが，逆に海外へ交換学生として出る人は少ないようです．学期構成の違いから，単位取得が困難になるなどが原因でしょうが，留学はやはり楽しく，私の今までの人生の中で最高のイベントでした．加えて，圧倒的に安い阪大の授業料を払うだけでよいことも魅力的です．私の経験が交換留学を希望する方に何かのお役に立てば幸と考えて，交換留学生になるまでを中心に紹介いたします．



* Noriko KITAHARA
1974年10月28日生
大阪大学大学院工学研究科分子化学専攻博士後期課程2年中退
現在，三枝国際特許事務所・化学部，修士(工学)，有機化学
TEL 06−6203−0941
FAX 06−6222−1068
E-mail kitahara@saegusa-pat.co.jp

2. UCIに受け入れてもらうまでの手続き

まず，大学院生としてEAPに受け入れてもらうための最低条件は，

1. TOEFL 550点以上
2. GRE(Graduate Record Examinations)の受験
3. GPA(Grade Point Average)が3.0以上

でした．TOEFLは説明の必要はないと思いますが，多くの日本人が受けるビジネス英語のためのTOEICと違い，留学するための英語のテストです．GREとは大学院レベルの教育に対する適性能力を測ることを目的とした統一試験で，大学院プログラムに出願する際，そのスコアの提出が要求されます．学部4年の時に工学部の交換留学掛かりに交換留学のことを聞きに行った時，私の準備が始まりました．その頃の交換留学担当の人の対応は要領を得ず，まずTOEFL, GREを受けて，それから出直してきてくれということでした．今思うと，それでは遅い気がします．この2つのテストのための勉強に私は1年以上かかりました．それから，聞きに行っても遅いのです．交換留学をしようと思っている方は，UCのホームページを見るなどして，それぞれの大学に入るための最低ラインや，どういうシステムをとっているかなど，自分で調べられた方がいいと思います．UCのEAPの日本の事務所は，カリフォルニア大学東京スタディーセンターといって，国際基督教大学内にあります．直接そこに問い合わせることもできるし，インターネットを使って，UCの希望の大学のホームページを調べ，直接UCに問い合わせることも可能でしょう．

やっと，大学側が協力的になってくれたのは，私がTOEFLの点をクリアして，GRE testの日程も決まってからでした．幸いであったのは，その時に新野さんいう親切な工学部の交換留学担当新任の方に出合ったことでした．今から考えると新野さんがおられなければ私の留学は実現しなかったかもしれないと感じています．それからの手続きは，大学の交換留学掛かりを通して行なって頂きました．

まず，UCに交換留学のapplicationを出す資格を得るために，essayの課題が出されました(Nov. 1998)．内容は自己紹介と交換留学をしたい理由などで，書式は自由なものでした．essayがUCの審査に合格した後，阪大のある教授と日本語での面接がありました．その面接は堅苦しいものではなく，数日後に控えたカリフォルニア大学東京スタディーセンター所長による面接に備えたもので，志望動機やUCでどういうことをやりたいかなどを聞かれました．私の答え方についていろいろアドバイスを頂きました．そのカリフォルニア大学東京スタディーセンター所長との面接は，同志社大学で，UCからはるばるやって来た教授によって英語で行われました(Dec. 1998)．この面接も和やかで，特に厳しい雰囲気はありませんでした．面接に合格してようやくUCへのapplicationを出すことができるのですが，面接の前に必要書類について書類の記入方法のオリエンテーションがありました．面接に合格するか分かりませんが，とにかくオリエンーションを受けるという形でした．

無事に面接に合格し，UCIにapplicationを出すことになりました．私は，UCIに留学されていた阪大出身の先輩，鎌谷朝之さんの紹介で，UCI, Chemistry Department の Professor Keith A. Woerpelと1年ほど前からコンタクトをとっていました．大学院での交換留学は，受け入れ率が低いとのことで，普通は自分を受け入れてくれる大学と研究室を探すために複数校にアプライするのですが，私はKeithから受け入れてくれるとの約束がとれていたために，UCIのみアプライしました．推薦書を3通(工学研究科分子化学専攻の3人の教授にお願いしました)そろえ，全ての必要書類を提出したのは2月中旬でした．全ての書類は工学部交換留学掛かりを通じて，カリフォルニア大学東京スタディーセンーに送られ，そこからUCへ郵送されるという流れでした．そのため，UCIの締め切りまでに書類がつかないことになる恐れがあり，常に早め早めで物事を進めるよう注意していました．

UCIのChemistry Departmentから正式に受け入れる許可通知が来たのは3月に入ってからだったと思います．正式に受け入れが決まり，次に問題になってくるのが，住む場所の確保でした．5月中旬にUCI Housing OfficeとEAP officeに希望のapartmentのリストを送りました．UCIのEAPのホームページ(http://www.cie.uci.edu/~cie/reciproc.html)から，EAPのgraduate students は Verano Placeという，一番経済的なapartmentに入る優先権があることを知り，さっそくそこを第一志望にして申し込みました．正規にUCIに入学すれば，長いwaiting listに加わって少なくとも1年は待たなければいけないのですが，EAP studentsを優遇するシステムがあって本当に助かりました．

それから，UCIからI-20の書類が送られてきたのが6月頭と結構後になってからでした．I-20とはF-1 Visa(正規留学生に対して発給されるStudent VISA)の申請の際，必要となる書類です．それから急いでNonimmigrant Visa Application(非移民査証申請書)を送ってくれるように返信用封筒を同封し，アメリカ総領事館の方に送りました．F-1 Visaの申請は，旅行代理店などが代理で行なってくれますが，アメリカ総大使館のホームページ(http://www.senri-i.or.jp/amcon/usa_01.html)を見れば，わざわざ高いお金を出してやってもらう必要はありません．私の場合には2週間程度でVISAが送られてきました．

3．ESL(English as a Second Language) courseへのアプライ

私は，もともと本場アメリカでEnglish skillを磨きたいと思っていたので，新学期が始まる前の語学研修としてESLのコースの参加することにしました．UCIは9月から始まるので，8月にUCI Extensionで行われる4-Week Conversation & Culture Programにapplicationを送りました．この手続きは，交換留学とは全く関係ないので，個人で行うことになりましが，UCIのホームページでESLを探し(http://www.uci.edu/~unex/esl/), e-mailで担当のオフィスに問い合わせればすぐにパンフレットとapplication formを送ってくれました．もちろん，EAPとは別にESLのI-20を送ってもらいまし

た．UCI側から，アメリカ入国するときはESLのI-20を提示するようにと言われていましたが，アメリカの入国審査の時，ESLのI-20はいらないと，その場で捨てられてしまいました．

4 おわりに

今から思うと，あまりに情報不足の状態からスタートしてしまったと反省しています．そのため，交換留学を実現するために，多くのステップをクリアすることになりましたが，全ての手続きを自分ですることで，前よりも自分に自信がつきました．また，大学側の多くの機関と英語でやりとりすることも，アメリカに行く前のちょうどいい準備練習になりました．初めてのアメリカンライフでしたが，多くの親切な人たちに囲まれ，何のトラブルもなく楽しむことができました．

今回，留学して本当によかったと思うことは，アメリカで多くの友達つくることができたことです．その中でも，ホストファミリーMary & Davidとルームメート Gail & Babyとはかなり親しくなることができ，彼らからは大きな影響を受けました．彼らは1年間，いつも私のことを気づかってくれ，側にいてくれたので，私はいつも安心してアメリカで生活することができました．本当に感謝しています．

最後になりましたが，私の留学の夢に最初から最後まで協力してくださり，この文章を書くようにすすめていただいた工学研究科分子化学専攻の馬場章夫教授，UCIで1年間研究指導をいただいたProfessor Keith A. WoerpelとWoerpel Groupのメンバーに感謝したいと思います．また，先輩としていつも相談にのっていただいた鎌谷朝之さん，UCI EAP officeのMs. Sharon Parks，阪大工学部の交換留学担当をしておられた新野栄一さん，カリフォルニア大学東京スタディーセンターの大貫雅子さん，大変お世話になりました．

＊追　記

北原教子さんは帰国後，国際的な弁理士になるという新たな夢に向かって，10月から活動を始めている．もちろん，アメリカでの生活経験が自分の夢に向かって進む姿勢に拍車をかけているのは言うまでもない．（馬場記）